

ハンドボール

スロ-オフチーム 山支卓小



日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. 16

No. A7
(16名用)

A	山口県	山支卓小	B
---	-----	------	---

合計	24	14-13	31	合計
----	----	-------	----	----

A 倉谷康彦 7m TC 高橋 淳 B

大会名	第67回国民体育大会 ぎふ清流国体			
開催日	平成24年10月9日(火) 場所 高山市ビッグアリーナ			
種別	少年	男	女	回戦 第 回戦 準決 決 リーグ

A 山口県	警告	退場	失格	チームタイムアウト		合計
				前半	後半	
役員A 倉谷康彦				14	0	14
役員B 高杉祐介				2	33	35
役員C 栗原一				得点		
役員D 藤本靖雄				前半	後半	合計
1 川岡靖弘						
2 助安功成						2
3 徳田新之介				E	F	9
4 重岡晃介						2
5 木下昌紀					F	4
6 大久保洋					T	3
7 佐竹叶多						2
8 難波隆太						
9 池岡結夢					T	2
10 白川大貴						
11 山崎将彦						
12 佐藤長哉						
合計				10	14	24

B 山支卓小	警告	退場	失格	チームタイムアウト		合計
				前半	後半	
役員A 高橋 淳				17	4	21
役員B 三川俊哉				28	14	42
役員C 滝村紀貴				得点		
役員D 田辺玲大				前半	後半	合計
1 青木優						
2 瀧之上佳史						2
3 横山大貴				T	T	4
4 倉畑凌介					F	4
5 横本崇志				T		3
6 継石祥平					T	2
7 望月健司						1
8 政井颯起						2
9 森下将史				T	T	4
10 堀 広輝				F	T	5
11 玉野支寛				T	T	4
12 岩切貴勲						
合計				13	18	31

タイムキーパー 石橋 和泉 スコアラー 中上李樹

マッチメイカー 三浦元伸 審判員 浦川 純生 サイン 石塚 幸弘

背番	前半			後半		
	結果	得点	時間	結果	得点	時間
5	1	1	17		0	27
3	2	3	25		1	26
		3	50	1	10	2
		5	35	2	10	2
3 W		8	09			3
		9	33	3	10	3
		10	19	4	11	4
		12	00	W	3	9
3	3	12	32		3	12
		13	19	5	9	6
2 W		13	56	6	3	2
①		14	01			9
2	4	14	53	W	8	10
3	5	15	34		3	14
3	6	16	10		7	5
		19	04	7	11	5
3	7	19	35		3	16
		22	02	8	8	3
		23	04	9	9	9
		24	16	10	5	9
7	8	24	53		6	18
4	9	26	07			17
		27	27	11	5	18
		28	10	12	2	3
6	10	28	42		6	20
		29	57	13	3	20
					4	21
					7	22
					5	23
						26
					⑦	26
						27
					5	24
						28
						29
						14
						30
						31
						11
						24
						31

特記事項

ハンドボール 結果報告 No.15

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月9日(火)	試合記号	A7	回戦	決勝
種別	少年男子	会場	飛騨高山ビッグアリーナ		
A(都道府県名)			B(都道府県名)		
山口県			岐阜県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
24	10	前半	13	31	
	14	後半	18		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名 中島八郎

決勝戦。準々決勝、準決勝と、激戦を勝ち抜いてきた開催地、岐阜県が勝ち上がってきた。対する山口県は昨年準優勝、リベンジの試合だ。岐阜県は初めての決勝戦。お互いどのような戦いをするか興味ある試合となった。試合は岐阜県のスローオフで試合開始。開始1分30秒、山口県5番木下のミドルシュートで先制。岐阜県10番堀のミドルシュートで同点とする。その後、堀の2連続得点、11番平野の速攻で11分、4対2とリードする。その後、9番森下のカットイン、3番横山のカットインとシュートで得点を重ね、15分、6対3となる。山口県は、2番助安のポスト、3番徳田の2連続得点で同点となる。岐阜県はディフェンス、5-1から4-2に変え、山口県3番徳田をマーク気味に守る作戦に出た。22分、岐阜県8番政井のパスカット速攻及び、9番森下のミドルシュート等で7対9と2点リードする。その後、一進一退の攻防が続き、残り3秒、岐阜県3番横山のポストシュートで得点し、前半13対10で岐阜県の3点リードで終了した。

岐阜県の3点リードで後半が始まり、岐阜県3番横山の速攻でシュートが決まり、リードを広げる。開始2分で岐阜県のシュートが次々に決まり、6点差とする。山口県は岐阜県の4-2ディフェンスを崩せず、リズムに乗れない。ようやく5分過ぎ、9番池岡、3番徳田の連続得点するも点差は縮まらず10分過ぎより、岐阜県は山口県3番徳田のマンツーマンディフェンスとしリズムに乗せない。その間、着実に得点し、17分過ぎには8点差までリードする。18分過ぎ、岐阜県11番平野が2分間退場となる間、山口県に3連続得点される。その後、一進一退の攻防が続いた。22分過ぎ、山口県はマンツーマンディフェンスにする。岐阜県は、リズムが乱れ、3得点され、4点差となる。しかし、岐阜県10番堀のカットインシュートで得点し、リズムをつかむ。岐阜県は安定した守備と着実な攻撃で得点し、動きが最後まで切れなかった。又、地元の利を生かした会場の応援も大きいものがあった。最後、11番平野のミドルシュートが決まり、結果、31対24で岐阜県が初優勝した。

どんな大会においても、頂点に立つ喜びは、苦しさ、難しさ、厳しさを乗り越えた者に与えられるものだと思う。来年の東京大会はどんなドラマが待っているか楽しみだ。